

# 生命のにぎわい通信

第64号：令和4年(2022年)10月 発行

発行：千葉県環境生活部自然保護課

生物多様性センター

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2

(千葉県立中央博物館内)

TEL: 043-265-3601 FAX: 043-265-3615

URL: <https://www.bdcchiba.jp/monitor-index>

E-mail: monitor@bdcchiba.jp

## 千葉県で見られる二枚貝

私たちが普段何気なく見ている河川、水路や池には様々な二枚貝類が生息しています。意外に思われるかもしれません、千葉県内には多彩な二枚貝類が生息しています。今号では、淡水に生息するものを中心に、県内で見られる9種の二枚貝を紹介します。写真右上は殻長(横幅)、写真下部は定規の目盛りです。種名横の記号は県レッドリストのランクです。



**ヤマトシジミ(B)**

日本全国の汽水域の砂地や泥底に生息しています。食用に販売されている“シジミ”的ほとんどは、このヤマトシジミです。マシジミと比べ、殻にはより強い光沢があります。



**マシジミ(A)**

河川や水路、湖沼等の淡水域に生息し、礫が混ざった砂地や泥底等で見られます。ヤマトシジミが雌雄異体なのに対して、マシジミは雌雄同体です。



**タイワンシジミ(外来種)**

中国、韓国、ロシアなどから大量に輸入したものが野生化したと考えられています。タイワンシジミが侵入した水域では、在来のマシジミが見られなくなるという報告もあります。



**ドブシジミ**

上記の3種はシジミ科ですが、本種はドブシジミ科に属します。緩やかな流れの水場を好み、日本全国の池沼や河川、小川、水田等の泥底に生息しています。殻は淡黄色をしています。



**ヌマガイ**

湖、池沼、河川や小川等の礫が混ざった砂底や泥底に生息しています。従来、ドブガイと呼ばれていました。ミヤコタナゴ等に産卵母貝として利用されます。



**イシガイ属の一種**

池沼、河川や小川等の礫が混ざった砂底や泥底に生息します。イシガイ属にはイシガイとタテボシガイの2種がいますが、千葉県に生息するものはタテボシガイとする見解があります。



**マツカサガイ属の一種**

河川や池沼の礫が混ざった砂地等の流れのある部分に生息します。マツカサガイ類には、複数種が混在しているものと考えられています。ミヤコタナゴ等に産卵母貝として利用されます。



**ヨコハマシジラガイ(C)**

流れの緩やかな河川や水路等の礫の混ざった砂底に生息しています。マツカサガイ類と同所的に生息することができます。ミヤコタナゴ等に産卵母貝として利用されます。



**カラスガイ(A)**

日本全国の平地の湖や池沼、また、そこから流出する河川の一部等で見られます。通常、殻長は100mmから200mm程度ですが、中には350mmを超える個体も見られます。

### 参考文献

- 北村淳一・内山りゆう. 2020. 日本のタナゴ 生態・保全・文化と図鑑. 山と溪谷社.  
紀平肇・松田征也・内山りゆう. 2009. 日本産淡水貝類図鑑 ①琵琶湖・淀川産の淡水貝類 改訂版. 株式会社ピーシーズ.

最新の生物多様性に関する情報や各種講習会の情報は当センターと調査団のホームページをご覧ください

調査団：<https://www.bdcchiba.jp/monitor-index> と生物多様性センター：<https://www.bdcchiba.jp/>



日本の古典文学には、様々な生き物たちが様々な形で登場します。かつてこの国の人々はどのように生き物とかかわり、その姿に何を見ていたのでしょうか。この連載では、生物多様性センターに勤務している、ポエトリー・スラム W杯日本代表詩人の大島健夫が、<sup>いのち</sup>生命のにぎわい調査団の皆様を過去の世界にご案内します。

『万葉集』には、シジミ貝の歌が一首だけ収められています。

すみのえ  
住吉の 粉浜のしじみ 開けも見ず 隠りてのみや 恋ひわたりなむ

住吉の粉浜のシジミ貝が殻を開けもしないで黙って隠れているように、私もこの心を誰にも打ち明けられずにそっと恋し続けている・・・という、純情そのものの歌です。

住吉の粉浜というのは、現在でも同じ地名のままの大坂府住吉区粉浜のことです。現在は埋め立てられて都市化していますが、かつては住吉大社より先は海だったのだそうです。日本には在来種のシジミ貝は、マシジミ、セタシジミ、ヤマトシジミの3種類がいます。広大な河口干潟であったに違いない粉浜に棲んでいたシジミ貝とは、その3種のうちで唯一、海水と淡水が混ざる汽水域に生息するヤマトシジミのことでしょう。スーパーなどで「シジミ」として売られている二枚貝の多くはこれです。つやつやとした殻の長さは3cm前後、丸みを帯びた三角形をしており、若い頃は茶褐色、成長するとほぼ真っ黒い色になります。

食品としては大変おいしくて栄養価も高いヤマトシジミですが、粉浜のような埋め立てや、あるいは河口堰の建設や干拓などによる汽水域の環境変化に伴い、その漁獲量は全国各地で年々減少しており、環境省のレッドリストでは「NT（準絶滅危惧）」、千葉県のレッドリストでも「B（重要保護生物）」にランクされるに至っています。

万葉集に収められた、粉浜のしじみの歌の作者は不明です。おそらく、もう永久に明らかになることはないでしょう。性別も年齢も来歴も全くわからない作者は、1300年ほど前の時代を生き、この歌一首だけを日本文学史に残して消えていきました。しかし、この不器用な片思いの恋の歌はまた、これから先もずっと、粉浜にヤマトシジミが確かに生きていたという自然科学史上の証でもあり続けるのです。



画 斎藤倫瑠

### <これから季節に観察できる生きもの>

○調査対象種：ミヤコドリ、オオバン、モズ、リンドウ、

イチョウ（黄葉）、イロハモミジ（紅葉）など

○調査対象種以外

\*渡りのシギ・チドリ類などの鳥類

\*各種昆虫、両生類、爬虫類など

\*希少生物（生息地・生息数が減少している生物）、

外来生物の報告も受け付けています。

調査対象種以外は種の同定が難しいため、できる

だけ写真の添付をお願いします。

### 「生命のにぎわい調査団 現地研修会」のご案内

#### 県立青葉の森公園で身近な生き物の越冬を観察しよう！

県立青葉の森公園は1987年に開園した都市公園です。今回は、身近な公園を散策しながら、生き物たちの越冬の工夫について学びます。

●開催日（荒天中止）

令和4年12月10日（土）9時30分～12時（予定）

●定員：40名（申込者多数の場合は抽選）。小学生以下が参加する場合は保護者同伴。

●申込締切：令和4年11月18日（金）必着（郵送またはFAX）

●詳細は申込案内書をご覧ください。

\*本研修会実施の可否は、新型コロナウイルスの状況を見ながら判断します。